

## 第三者評価結果報告書

《総括》	
対象事業所名	すくすく保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人 長幼会
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒224-0027 横浜市都筑区大圃町 74-12
設立年月日	平成 13 年 4 月 1 日
評価実施期間	平成 27 年 7 月 ~ 27 年 2 月
公表年月	平成 27 年 3 月
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

### 総合評価

#### ●すくすく保育園の立地・概要

すくすく保育園は地理的には、地下鉄グリーンラインの東山田駅から徒歩 12 分、市営地下鉄の開通により里山などを切り開いて開発された新しい住宅地で、計画的な都市計画が随所に見られ、広い道路、分散されたたくさんの公園、里山の残された部分がマッチして子どもたちの育成に最適な環境にあります。法人母体の水野クリニックは、昭和 56 年開院以来、地域の「かかりつけ医」として診療と相談を行って来た歴史があり、特に、赤ちゃんからお年寄りまで、この地で安心して安全な生活を送れることを考え、同じ地に介護老人保健施設、高齢者グループホーム、病児保育室、そしてこの「すくすく保育園」を設立しました。社会福祉法人長幼会は、その名の如く、高齢者と子どもが共に生活できることを考えて創設された法人で、近年、核家族化が進み、子どもはお年寄りとの生活を知らず、お年よりも可愛い子どもと触れ合う機会が少なく、長(お年寄り)、幼(子ども)の交流により、子どもたちは両親からは得られない別次元の優しさと無限の愛をお年寄りから与えられ、お年寄りは子どもたちから生きる喜び、幸せを得ることができ、相乗効果は大きく、有効なコミュニティ形成が為されています。

すくすく保育園の定員は 60 名で、各年齢は 10 名定員となっており、現在は 73 名を受け入れています。2 階建ての園舎で、保育室の配置は、2 階は 3 歳児、4 歳児、5 歳児のクラスで、1 階が 0 歳児、1 歳児、2 歳児の保育室が設けられており、厨房、事務室も 1 階にあります。各階に多目的ホールがあり、異年齢等の食事会や、雨の日の体操などに有効に活用しています。訪問調査日はさつま芋ほりの行事が行われた日であり、農家と契約した畑でさつま芋ほりを楽しく行っていました。すくすく保育園は、恵まれた自然の中でのびのびと保育が行える良い環境であり、子どもたちも非常に元気で、園庭で元気にのびのびと遊んでいます。

#### ●すくすく保育園の保育の方針

保育の目標として、「思いやりのあるたくましい子どもの育成」を掲げ、高齢者との交流や子ども間の年齢の枠を越えた交流、野菜・花作り等、自然とのふれあい体験や、遊

び、季節行事などを通して、人間形成の基礎となる思いやりの気持ちや、心身ともに逞しい子どもの育成を目指しています。さらに、①「たくましい子（社会性・自立心）②「仲良くする子（優しさ）③「よく考える子（自発性・知的好奇心）」とした目指す子ども像を日々の保育に取り込み、家庭と地域社会との連携を密にして取り組んでいます。地域は豊かな自然に恵まれ、虫の飼育、どんぐりや松ぼっくりなどの素材も豊富にあり、子どもたちはその素材を活用して創造豊かな生活を享受しています。医療面についても、同法人の水野クリニックと病児保育施設が隣接し、病気についても安心できる体制を構築しています。

## 《特によいと思う点》

### 1. 高齢者と子どもの年齢の枠を超えた交流

すくすく保育園は同じ区画敷地内に老人福祉施設「ハートフルステーション」（デイサービスを含む）および高齢者グループホーム「横浜はつらつ・横浜ゆうゆう」があり、高齢者とふれあい祭りをはじめとした共催のイベントは、相互に非常に良い効果をもたらしています。乳児はバギーでデイサービスに行き地域の高齢者と交わり、幼児はお祭りの制作を高齢者と一緒に準備する等、触れ合う機会を設けています。また、保育園の運動会には席を用意し、車椅子でも見学に来られ、玉入れなどには高齢者も参加して園児との楽しい良い交流ができています。法人全体でお年寄りと子どもとの交流により、子どもたちはお年寄りから愛情を、お年寄りは子どもたちから生きる力を与えられ、その相乗効果は大なるものがあります。

### 2. 系列園との合同ふれあい体験と食育

すくすく保育園の自然とのふれあい体験では、隣の介護老人保健施設との間に畑が設けられており、畑では米の栽培をした年もありましたが、今は低年齢児が保育士と一緒に野菜を栽培し、低年齢児が収穫して給食で食しています。高年齢児は離れたところに畑を借りて収穫を行っています。また、法人系列4園と定期的に交流が図られ、今回、調査訪問日では、さつま芋ほりに「みなとみらい保育園」の4歳児が合流し、園児たちは朝、横浜から地下鉄、バスを乗り継いですくすく保育園に到着し、一緒にさつま芋ほりに行き、お昼には合同で食事をし、同法人の介護老人保健施設のマイクロバスで帰園する等、法人内でふれあい体験を行っています。すくすく保育園の子どもたちも「千丸台保育園」の畑に行って同様に合同で活動を行っています。さらに、食育と自然とのふれあいの体験に止まらず、公共交通機関を利用して出かけることで幅広い社会性も育んでいます。自分たちで収穫した野菜等は、調理職員に調理してもらい、園では子どもたちは好き嫌いなく食べています。栄養士は給食だよりを発行し、子どもの人気レシピを掲載し、家庭でも調理できるように食育を啓蒙しています。

### 3. 地域との交流

すくすく保育園が位置する地は、社会福祉法人長幼会の発祥の場所であり、近隣関連施設を含めて地域との関係は非常に良好です。自治会、JA（農協グループ）、近隣小学校との交流もあり、園行事のふれあい祭りや、餅つき会などには近隣の方を招いています。園では地域に向けて、定期的な育児相談や育児講座（年2回程度）を実施し、育児講座実施の折には園庭開放を行う旨をお知らせし、参加を呼び掛けています。また、一時保育も実施し、園の容量の関係で1日1名ではありますが受け入れ、登録は20名強あり、さらに希望もある状況で、1、2歳児の要望が多い実態にて、緊急対応についてはできる範囲内で極力受け入れるよう努めています。地域の関係機関とは、都筑区で展開している「おひさま広場」に協力し、職員の派遣や、利用者対応を市内の各園と協力して実施する等、協力体制を築いています。さらに、地域の中川小学校の校外補導の担当を中心として実施されている「スクールゾーン協議会」にも参加し、交通安全を中心とした活動を行う等、地域と連携を図り、積極的に貢献しています。

#### 《さらなる改善が望まれる点》

##### 1. 更なる職員の質の向上

すくすく保育園では職員・保育の質の向上に努めています。園内研修の充実、関連保育園との交流を通じて、常に研鑽を続けています。ただし、昨今の配慮を要する子どもの増加、社会情勢の変化、総合子ども園や小規模保育事業等の保育政策の大幅な変化、市立保育園の民営化とそれに伴うネットワーク化など、保育を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。単に保育そのものに止まらず、周辺環境の状況把握が望まれる今日です。すくすく保育園では園内研修の充実と外部で受けた研修内容を園全体で把握・活用すべく計画中と聞いています。専門職として常に新しい知識を学ぶ活動を展開していますが、一層の研鑽を期待いたします。